

# 施策マネジメントシート

作成日 平成 30 年 8 月 31 日

施策	No. 13	健やかで生きいきと暮らせる環境づくり			
施策 主管課	健康づくり課	氏名	秋山公代	施策 関係課	国民健康保険課、福祉総務課、御坂、境川、春日居支所

## 1. 現状把握 Plan→Do

### (1) 施策の目的と指標

① 対象 (誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 ◇市民	③ 対象指標名称 (対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない (単位)
	a 笛吹市の人口<4月1日現在> 人
	b c
② 意図 (対象をどういう状態に変えるのか) ◇健康的な生活習慣を身につける。 ◇健康で充実した生活を送ることができる。	④ 成果指標名称 (意図の達成度の指標) 数字は記入しない (単位)
	d 日ごろから健康に心がけている市民の割合 %
	e 特定健診を受診した国民健康保険被保険者の割合 %
	f 健康で充実した生活を送っている市民の割合 %
	g がん検診を受診した市民の割合 %
h 健康診査(19~39歳)を受診した市民の割合 %	
⑤ 成果指標設定の考え方 ◇健康的な生活習慣を身につけているかは、特定健診を受診した国民健康保険被保険者の割合、及び市民アンケートで把握する。◇市民アンケートが実施されない場合には健康診査(19~39歳)、各種がん検診(胃、子宮、肺、乳、大腸、肝)の受診率で把握する。◇健康で充実した生活を送ることができるかは市民アンケートで把握する。	⑥ 成果指標の取得方法 ◇まちづくり基礎調査⇒設問1「あなたは、現在、健康のために続けていることがありますか。(例:健康診断の受診、食生活の改善、運動の継続、健康づくりサークルへの参加など)、設問2「あなたは、現在、健康で充実した生活を送っていますか。」◇特定健診を受診した国民健康保険被保険者の割合は国民健康保険課データ(確定値は毎年10月のため、0内数値は決算時)◇健康診査、がん検診受診率は、健康づくり課データ

			23年度 実績、決算	24年度 実績、決算	25年度 実績、決算	26年度 実績、決算	27年度 実績、決算	28年度 実績、決算	29年度 最終目標	
対象 指標	a 笛吹市の人口<4月1日現在>	人	見込み値 72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000	
			実績値 72,192	72,145	71,724	71,132	70,749	70,599	69,861	
	b		見込み値							
成果 指標	d 日ごろから健康に心がけている市民の割合	%	成り行き値 60.2	60.2	60.3	60.3	60.3	60.3	60.3	
			目標値 63.7	65.0	61.5	62.0	62.5	63.0	63.5	
			実績値 60.3	58.8	60.5	-	-	-	49.8	
	e 特定健診を受診した国民健康保険被保険者の割合	%	成り行き値 45.0	45.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	
			目標値 50.0	65.0	48.0	51.0	54.0	57.0	60.0	
			実績値 42.5(42.1)	44.1(41.4)	45.5(42.6)	46.4(41.9)	47.3(46.3)	48.1(47.1)	- (51.0)	
	f 健康で充実した生活を送っている市民の割合	%	成り行き値 79.0	79.0	79.0	79.0	79.0	79.0	79.0	
			目標値 79.5	80.0	80.1	80.2	80.3	80.4	80.5	
			実績値 79.2	79.4	80.0	-	-	-	83.1	
	g がん検診を受診した市民の割合	%	成り行き値 31.0	31.0	31.0	31.0	31.0	31.0	31.0	
		目標値 40.0	40.0	40.0	41.0	42.0	42.0	42.0		
		実績値 31.4	30.4	39.0	41.0	40.8	44.6	40.6		
h 健康診査(19~39歳)を受診した市民の割合	%	成り行き値		15.0	15.0	15.0	15.0	15.0		
		目標値		16.0	16.0	16.0	17.0	17.0		
		実績値		15.0	15.0	24.9	28.4	28.1		
施策コスト	事務事業数		本		19	19	17	17	15	
	事業費 (A)		千円	455,946	471,234	484,993	429,676	442,745	464,023	526,692
	うち一般財源 (A')		千円	364,159	389,955	419,474	382,172	365,262	403,131	471,679
	人件費 (B)		千円	110,997	111,258	109,891	113,297	114,187	121,121	133,467
	トータルコスト(A+B)(C)		千円	566,943	582,492	594,884	542,973	556,932	585,144	660,159
うち一財(A'+B)(C')		千円	475,156	501,213	529,365	495,469	479,449	524,252	605,146	

### (3) 施策の目標設定の根拠 (水準の理由と前提条件)

◇後期基本計画策定に伴い成り行き値、目標値の再設定を行った。  
 ◇日ごろから健康に心がけている市民の割合(健康のために続けていることがあると答えた市民の割合):成り行き値はH23年度実績値を据え置く。目標値はH24年度に65%と設定。  
 ◇特定健診を受診した被保険者の割合:成り行き値はこれまでの実績値をもとに40%と設定。目標値は国の第2期特定健診等実施計画により目標数値を最終年度に60%ととなるように設定  
 ◇健康で充実した生活を送っている市民の割合:成り行き値はH22年度実績値程度と設定。目標値はH24年度に80%と設定  
 ◇健康診査(19~39歳)は、成り行き値は、H25年度の実績値程度とした。  
 ◇がん検診受診率は、19歳以上の胃、子宮、肺、乳、大腸、肝の6種類の対象者と受診者の割合とし、成り行き値はH23年度実績値程度と設定。H27年度実績値は、県が示している健診標準対象者と各種検診希望調査、除外対象者を基に受診率を計算したが、H28年度実績値から、県が健診標準対象者を示さず、人口を対象者数として受診率を計算する方式に変更になったため、H27年度の健診標準人口/人口比と各種検診希望調査、除外対象者を基に受診率を計算した。

### (4) 施策の役割分担 (住民と行政との役割分担)

ア) 住民の役割 (住民・地域・団体・事業所が、自助・共助でやるべきこと) ◇市民は、かかりつけの医師を持つ。定期健診を受ける。健康教室に参加する。生活習慣に気をつける。食事に気をつける。 ◇団体は料理教室や健康教室を開催する。	イ) 行政の役割 (市・県・国がやるべきこと) ◇市は、健康診査を実施する。健康教室や健康相談を開催する。食育を進める。健康に関する情報を提供する。 ◇市は、健康に結びつく運動の啓発を行う。
--	---

(5)環境変化 (対象者や根拠法令等は5年前と比べてどう変わったのか?)

(6)関係者の意見・要望 (住民、議会、対象者、利害関係者等)

<p>◇H25年度から40歳の特定健診集団健診受診者の自己負担(1,000円)を無料とした。</p> <p>◇H26年度働く世代の女性支援のためのがん検診推進事業が開始された。</p> <p>◇H26年度から人間ドック、個別医療機関健診の実施期間を延長した。</p> <p>◇H28年度から、胃内視鏡検査を導入した。</p> <p>◇H29年度からがん検診・健康診査の対象者見直しを行う。</p>	<p>◇市民から、高齢者の健診体制を充実してほしいという要望がある。</p> <p>◇市民から、集団健診での託児サービスは助かりましたとの声があった。</p> <p>◇ウォーキングを中心とした健康プログラムを提供してほしいとの要望があった。</p> <p>◇市民の健康づくりの意識の啓発を図ってほしいと要望があった。</p>
--	--

2. H29年度の施策の実績 Check

(1)施策の成果実績

<p>① 目標達成度評価 (前年度目標値と実績値との比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目標値より高い実績値だった</li> <li>○ 目標値どおりの実績値だった</li> <li>● 目標値より低い実績値だった</li> </ul>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇日ごろから健康に心がけている市民の割合、49.8%</p> <p>◇健康で充実した生活を送っている市民の割合、83.1%</p> <p>◇健康診査(19～39歳)を受診した市民の割合は、目標値17%に対し、実績値28.1%と高い数値であった。(健康への関心が高まってきていると考えられる。)</p> <p>◇がん検診を受診した市民の割合は、目標値42%に対し、実績値40.6%であった。指針に基づいて検診対象の見直しをした影響も考えられる。</p> <p>◇特定健診(40～74歳)を受診した国民健康保険被保険者の割合は、目標値60.0%に対し、実績値51.0%&lt;法定報告値は10月確定&gt;と低い数値であった。(H24年度から定期受診をしている特定健診の対象者に対して、同意の主治医から特定健診項目の情報提供を受ける等の様々な取り組みを行っているが、健診に対する意識が高まらないことが影響していると考えられる。)</p>
<p>② 時系列比較 (過去3か年の比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 成果がかなり向上した</li> <li>● 成果がどちらかと言えば向上した</li> <li>○ 成果はほとんど変わらない(横ばい状態)</li> <li>○ 成果がどちらかと言えば低下した</li> <li>○ 成果がかなり低下した</li> </ul>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇日ごろから健康に心がけている市民の割合は、H25年度の60.5%から49.8%と大幅に下がった。</p> <p>◇健康で充実した生活を送っている市民の割合は、H25年度の80.0%から83.1%と上昇した。</p> <p>◇健康診査(19～39歳)の受診率は、H27年度24.9%、H28年度28.4%、H29年度28.1%と増加傾向となっている。(健康への関心が高まってきているものと思われる。)</p> <p>◇がん検診受診率は、H27年度40.8% H28年度44.6% H29年度40.6%と推移している。指針に基づいて検診対象の見直しをした影響も考えられる。</p> <p>◇特定健診(40～74歳)を受診した国民健康保険者の割合は、H27年度47.3%(46.3%)、H28年度48.1%(47.1%)、H29年度51.0%(法定報告値は、10月に確定)と微増となっている。(受診勧奨を強化しているが、健診に対する意識が高まらないと考えられる。)</p>
<p>③ 他自治体との成果実績値の比較</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 他自治体と比べてかなり高い成果水準である</li> <li>○ 他自治体と比べてどちらかと言えば高い成果水準である</li> <li>● 他自治体と比べてほぼ同水準である</li> <li>○ 他自治体と比べてどちらかと言えば低い成果水準である</li> <li>○ 他自治体と比べてかなり低い成果水準である</li> </ul> <p>比較自治体名</p> <p>南アルプス市、山梨市、甲州市</p>	<p>⇒左記の背景として考えられること</p> <p>◇日ごろから健康に心がけている市民の割合及び健康で充実した生活を送っている市民の割合は、近隣市において毎年同様のアンケートを実施していないため比較は行っていない。</p> <p>◇健康診査については、対象者の年齢が一律でないため他市との比較は困難。</p> <p>◇がん健診については、山梨県生活習慣病健診管理指導協議会の資料と比較すると、H26年度については、肺がん検診受診率は、笛吹市59.0%、山梨市24.8%、甲州市38.7%、南アルプス市65.8%、胃がん検診は、笛吹市19.9%、山梨市14.9%、甲州市9.9%、南アルプス市15.4%、肝がん検診は、笛吹市48.9%、山梨市22.7%、甲州市33.4%、南アルプス市53.4%、大腸がん検診は、笛吹市43.8%、山梨市19.1%、甲州市28.6%、南アルプス市46.2%、子宮がん検診は、笛吹市38.9%、山梨市12.7%、甲州市14.6%、南アルプス市43.6%、乳がん検診は、笛吹市37.1%、山梨市19.0%、甲州市27.3%、南アルプス市46.3%と他市とほぼ同程度である。(27年度については、今後の発表になる。&lt;H30.6確認&gt;)</p> <p>◇H28年度の特定健診受診率は、笛吹市が48.1%、南ア市が54.2%、山梨市が41.0%、甲州市が57.5%と他市よりやや低い水準であった。(H29年度数値については、10月の法定報告待ち)</p>

対象指標名称⇒ 笛吹市の人口<4月1日現在>	(単位)	27年度	28年度	29年度	効率性評価
*対象指標実績値 (D) (1枚目 a)	人	70,749	70,599	69,861	◇H29年度の事業費については、福祉事務所維持管理事業が増加したため、H28年度と比較し、増額となっている。成果について、数年間の推移をみると向上した項目が多いが、コストが上昇しているため効率性が高いとは言えない状況である。
*対象1単位当たり事業費 (1枚目 A/D)	円	6,258	6,573	7,539	
*対象1単位当たり人件費 (1枚目 B/D)	円	1,614	1,716	1,910	
*対象1単位当たりトータルコスト (1枚目 C/D)	円	7,872	8,288	9,450	

3.最終的な施策の総括 Action

(1)達成状況の分析(理由と改善点)

<p>◇H28年度に第2次笛吹市健康増進計画を策定した。この中で、(1)生活習慣病の発症予防と重症化予防(2)社会生活を営むために必要な機能の維持向上(3)切れ目ない子育て支援(4)楽しく食べるための環境づくりを施策として取り組む基本目標としてあげている。</p> <p>(1)生活習慣病の発症予防と重症化予防の具体的な取組みとして、がん・循環器疾患・糖尿病の発症予防と重症化予防の具体的な取組みを計画している。がん検診については、国が示しているがん検診の指針に基づいた検診を実施し、H29年度から対象者の見直しを行った。また、検診の受診率向上に向けて受診勧奨と要精密検査者のフォローを実施する。国民健康保険の医療費が高額な腎不全の早期発見・重症化予防のために、市独自で腎機能検査を特定健診・健康診査に追加している。生活習慣病の重症化予防事業・管理栄養士の派遣事業などの取組みや、各種健康教室を開催する。</p> <p>(2)社会生活を営むために必要な機能の維持向上の中では、自殺予防対策として、こころの健康相談を実施し、精神科医や臨床心理士等の専門職と保健所等の関係機関と連携しながら相談にあたる。</p> <p>◇H26年度から、管理栄養士のいない市内の医療機関の内、6箇所に管理栄養士を派遣する管理栄養士派遣事業を実施している。H26年度から、人間ドックの受診期間を延長した。H27年度に国民健康保険法の改正に伴いデータヘルス計画を作成した。</p>
--